

【出席者】

社会教育委員：八木 博委員、熊谷紀男委員、鈴木美香委員、萩原淑恵委員、
西田正鋭委員

社会教育課：清水基之社会教育課長、杉山啓太郎社会教育係長

【会議の内容】

1 開会（事務局：杉山）

- ・欠席者の連絡

2 萩原副議長あいさつ

- ・暑い日が続いているが、いかがお過ごしでしょうか。少し動いた方が疲れにはいいかもしれない。今日は少ない人数であるが、公民館の在り方という諮問を受けて、今まで色々なところから情報を集めたり、視察に行ったり、皆さんから意見を伺ったりと積み重ねてきたが、ここで1度、今まで得た情報等を基に、それぞれの立場で島田市にとって公民館はどのようにあったらいいのかということを中心に話し合う、議論を出し合ってみたらどうかと考えている。今日はグループワークを進めたい。出てきた意見をまとめていくと、公民館の目的や課題もはっきりしてくるのではないかと考えている。自由に意見を出し合う時間をたっぷり取りたい。

3 清水課長あいさつ

- ・先月19日の志太地区社会教育委員研修会は、皆様のご協力のおかげでいい研修会ができた。お礼申し上げます。
- ・今日の議題は、副議長が仰っていただいたとおり、今までの協議を踏まえながら、皆さんからの公民館としてあるべき姿の意見を承りながら、まとめていきたい。忌憚のない意見をお願いしたい。

4 議題

(1) 「島田市における公民館の今後の在り方について」の検討

事務局

- ・前回、西田委員からの意見もあったことから、今回の諮問に関する行政側のスタンスについて、教育長、教育部長と協議をした。
- ・他市町はセンター化しているところもあり、視察も行っているが、島田市は六合も初倉もコミュニティが中に入っているし、金谷についても生活交流拠点ができ横にできる。センターという名前ではないが、そのような機能は有しているとの認識を教育長も教育部長も持っている。そのような位置付けをはっきりさせていただけるような方向性で問題ないのではない

かと話があった。

- ・現在の公民館の体制が不十分なので諮問という感覚はないので、より発展させていくために肉付けさせていくところをご協議いただき、答申いただければ。
- ・スケジュール感も当初は今年度末と考えていたが、大急ぎではないと教育長、部長も考えている。金谷が始まったばかりなので、その動きも注視しながらじっくりやっていたらいい。

清水課長

- ・3つの公民館はある程度複合機能を備えている。指揮系統が教育委員会か市長部局になるのかは違ってくるが、今できていること、足りないところ、類似施設等はそれに沿った形でいい。
- ・まずは公民館、複合施設としての在り方を検証していただいて、副議長が仰ってくれたように足りないもの、必要なものなど皆さんのお考えからお話をいただいてまとめていきたい。

萩原副議長

- ・センター化するかどうかということよりも、島田市にとって公民館3館がどうあるべきなのかということ、もう少し充実させられるところがあるのではないかという視点。すぐに答申しなくても、ゆっくり考えてくれればよいということ。

西田委員

- ・これは誰に向けて発信するのか、あくまでも市民ではなくて、これからの公民館をこう構築していった方がいいですよということを行政に発信して改善すべきことがあれば、参考にさせていただくというようなスタンスでいいのか。市民ではない。

事務局

- ・向かっている先は、市民というよりは行政側や携わっている運営サイドにはなる。市民のために考えていくのは押さえていただきたい。

西田委員

- ・3館は充実しているが、付随する施設がある。島田市、市民のためと考えた時に3館を中心に考える、他に一緒に考える、その辺りは自由ということでもいいか。

事務局

- ・周辺施設、類似施設と連携を取って発展していこうという方向性はもちろんあっていい。代表的な3館単独でなくても問題はない。

清水課長

- ・まず3館としてあるべき姿が基本となって、類似施設であり、公会堂であり、機能としてはそこまでないが、方向性を意識しながら捉えていただければ。

西田委員

- ・当初、この諮問が出た時、委員の中でも島田市はセンター化へ試行していくのだろう、社会教育委員の会議でそれに沿った提言をしてほしいのではないかと考えていた。

- ・予算が一番大きいと思うが、機構改革の中でうまくいかなくなっている。この際、公民館をもっとより良いものにしていく、市民のために、それを考えてくれればいいと。

萩原副議長

- ・諮問を聞いた時に、もしかしてと考えていたことではなくて、もう少し市民のために皆さん広く考えてくださいねということだと思ふ。そうした時に色々世の中変化してきていて、実際に3館は対応できているところもあるが、これからの世の中を考えていくと、こうしていかなければいけないのではというところもきつとあると思ふ。その辺りを柔軟に考えて、完璧ではなく、これからのことを考えながら、考えられることを出してもらえれば、広がると思ふので、最終的にはまとめなければいけないが、3館だけではなくて、島田市としてどうしてこうしなければいけないというところまで発展していくかもしれないが、それはそれで行政への答申として、私達の意見として出していけばいい。できること、できないことがあるがそれは選んでもらうしかない。頭を柔らかくし、いろんな意見が出てくるといい。

グループワーク（出席者少数のため、出席委員5人及び事務局職員2人で実施）
冒頭、事務局が資料（P1～2）に基づき、前回第2回の会議の振り返り説明。
20:15まで討議することとする。

- ・諮問を受けた時に答申内容の検討をやるのかと思つたが一切なかった。それがショックだった。自分が知らないだけで、他の委員は答申の目的を知っているのかと。普通は諮問、研究課題が出た場合、その内容を構成員で検討して、こういうふうにやっつていこうと組み立てるのが普通の手順。
- ・島田市の人口動態についての意見が全然出なかつたこともショック。今、どれだけの人がいて、これから5年後どうなのか、10年後どうなのか、その社会教育をどうするのかを全くなかつたのはいいのか。
- ・例えば、保育所の待機児童が減ってきている。安倍内閣の時は、2017年に解消すると言つていたが、解消できなくて、最近段々解消に向かっている。原因は政府は何もやらなかつたが、人口が減つてきただけ。それも6年ぐらいでガクつと変わってくる状況。
- ・火葬場の待機は都心部で6日～8日。それが解消するのが2040年ぐらい。今から5年後、10年後は動態が変わってくる。
- ・身近な問題として、町内会のスタッフはみんな70歳以上。60歳以下の方は全くいない。各地域における断絶はすごく激しいのでは。
- ・そのような状況を考えると公民館の使われ方をどのようになっていくのか検討しなくていいのか。
- ・田代議長の筋立てで構わないが、人口動態も入れるべきではないか。
- ・老人関係の組織もある。なごみの里など公会堂として、全てやっている。その役割も大きいということを入れて、その結果、公民館はどのような機能を持たなければいけないということに加えたらどうか。
- ・また、各種行事に参加されることは同じ人が多い。公民館に直接繋がらないかもしれないが、そのようなことも念頭に置いてまとめたらどうか。

- ・これまで関わってきた答申は、目次ぐらゐまで先に作成し、割り当てた。
- ・世の中の変化に対応していかなければいけないが、その課題について明確にしていた。
- ・人口動態については、市の戦略推進課や企画サイドでも資料はあるはずなので確認する。(事務局)
- ・公民館は絆、人と人が繋がるひとつの場であり、そこに存在意義があり、そういう場であってほしい。
- ・アメリカに行ってきたが、停電した時にどう対処していいか全くわからなかった。そういった時に誰かとつながっていると安心する。日本はそういう点では、集まる場所もあり安心できるが、公民館はそういう繋がりができるひとつであればいいなど、そうであるべきだと感じた。
- ・住んでいる人の変化、高齢化や外国人が多くなってきている、引きこもりや孤立している人が多くなってきている、不登校の子が多いなど、そういう変化に注目をしながら、どのような具体的な策を練っていったらいいのか、そういった人達との繋がりができていくようなものもあればいい。
- ・前回出たネットワーク、色々なサービスにアクセスできるということも考えてみてもいいのでは。地域で活動している人達はいるので、そういった人達と公民館も繋がりを持つ。
- ・公民館のスタッフが決して潤沢とは言えない現状。その方策のひとつとして、現行のそれぞれの分野で、既にボランティアやNPOで活動しておられる皆さんと絆を深めて、お互いに盛り立てていくのはどうか。これだけ様々な分野で皆さんは既に活動しておられる。公民館では自分達の力量ではとても及びも付かないような活躍の実態を把握して、地域の住民の皆さんに広くお知らせをする、参加を呼びかける。一方ではボランティアやNPOの活動の支援をする。そして、その活動を自分達の活動のひとつとして位置付けて、豊かにしていく。活動を共有することができれば、お互いにとって有益ではないだろうか。
- ・市役所ではそれぞれの活動を分野ごとに掲載しているが、公民館も同様により身近なものとして住民にお知らせできれば、皆さんに喜んでもらえるのではないか。
- ・例えば、森林文化協会が繰り広げているような温暖化から地球を守ろうという地球保全の活動は、なかなか公民館レベルで立ち上げるのは大変だが、そういった人達と絆を深めていくということで、公民館独自では取り組めないが、既存な活動と繋がりを深めて地域の人達に活動を広め、ささやかながら活動の一環を担っていくというのはいかがか。
- ・3人の委員の意見と同感。キーワードが出たのではないか。絆など最終的な答申の結論になっていくと思う。
- ・答申は作ることが目的のような答申は絶対ダメだと思うし、役に立つものでなければならぬ。家庭教育の答申は、色々なところで役に立っていくのではないかと感じる。公民館の提言も役に立っていないといけないし、行政を動かす力、原動力になってもらえるとうれしい。
- ・目次があつたり、堅苦しいものでは訴える力がない。論文で見るようなもの

ではない方がいいかなと気がする。

- 自分は公民館の中にいた人間なので、いわゆる理想郷というのはすごくわかるのだが、スタッフ不足など限界を感じながらやっていた。ただ、公民館の役割の中のキーワードは繋ぐであって、とても大事な業務であった。ただ、実際は繋ぐことを意識して職員は活動していなかったと思う。貸館が一番大きい業務であるが、機械的な手続きや社会教育講座をどのように組むかなどにすごくエネルギーを使っている。そのように思っている職員も正直いる。暇な時もある。いろんな仕事に比べれば、半分以下のエネルギーで済んでしまう気がする。だからまだまだできることはあると感じている。
- 全国の発表などを見ると沖縄などは、公民館が渦を作るぐらいエネルギーに動いている。人数が多くなくても。そういった公民館が全国で最優秀賞などを取ったりしている。島田も取っているが、果たしてどうなのだろうか。もっとできる場所はあったのかと。公民館に求めるところはまだまだあるのかもしれない。
- 社会教育は本当にわかりにくい定義。社会教育を具体的に実践をする場、集う場としては最先端の場だと思う。講演を組むよりもよほど価値がある場所。機能できれば、いろんな可能性がある場所。一方で、それは公民館活動だけのことになるわけで、公民館は3つとも複合施設。それはそれですごくいい働きをしている。図書館があり、児童館があり、デイや市民課も入っていて、複合的な場でそれはすごくいい機能。提言するのはそういったことも含めて、公民館の在り方、地域総合施設の在り方で考えていけばいいと思うが、それらが機能的に連携していくことも求められる。
- 役所の悪いところは縦割りの意識がすごく強いので、自分の業務しかやらないというのがすごく多い。同じ机を並べていても、隣の課が何をやっているのかわからない。学校教育、社会教育、教育総務とあるが、机ひとつ違えば全然関係なくなってしまう。おかしい。だが、公民館は連携ができる場所。縦割りをぶっ潰す場でもあるのか、そういった期待もしている。図書館、児童館はすごく繋がっていたと思う。時々、ケアマネと連携をして老人クラブをどうするか、そういった話もやっていた。市民課ともコミュニケーションを取っていた。横の連携ができる施設であるので、そのようなものは活かしていくべきであろう。おらが領域はここだよというような壁をなくす場所でもあったと、メリットとして考えて出てきた。
- 難しかったのが固定客しか来ない、決まった人しか来ない、という現象が努力はしていたがなかなか払拭できない。爆発的に人口は増えているのにシニアクラブは縮小している。あの矛盾は。増やすことを公民館でできないかと考えてやっていたが、そういった場でもあってほしい。固定で講座を受けに来る人は毎回来るが、新しいお客さんを開拓していくことは非常にできにくかった。そういった意味での繋ぎはできなかった。それをどんなふうにしていったらいいのかをひとつでもふたつでも載せてあげると、公民館にとっては役に立つのでは。
- 地域の自治会はやるのがたくさんあるので、活性化せざるを得ない。そうではない組織がいろいろある。コミュニティや子ども会やクラブなど。ボー

イスカウトなどもどんどん縮小していくので、そういうところにもてこ入れできないかとも考えていた。

- ・社会教育と考えた時に人をいきいきさせていく、課題解決をしていく、そういう場が社会教育という時に、公民館という場所を使ってどう手助けができるか、そういったテーマで考えてもいいのでは。人を一生ずっとグローバルに考えた時に、そのようなことも考えた。
- ・現場にいた委員の意見は貴重。固定客は、年齢層も同じか？（事務局）
- ・そうである。
- ・断裂している。お祭りには出るが、それ以外は出て来ない。
- ・講座であってもそう。夜組めば来るかと思っても来ない。その人にヒットするものでなければ来ない。時間ではない。
- ・そういった人達のニーズは何だろう？趣味に合っているのか、この技術を習得したい、仲間を作りたいなど。そういうものがなければ、なかなか来ない。必要なことを教えてくれるなどか。
- ・いろんな球を打っている。趣味的なこと、役に立つこと、アクティブ身体を動かすことなど。だいたい固定客で3分の2以上女性。いかに男性に参加してもらおうか。年齢は関係ない、年齢が高くても男性は少ない。
- ・男性は教えてくださいというより、私がやるよ、頼みますねの方がついてくるのかもしれない。
- ・民生委員の会議があったが焼津市の方が同じことを言っていた。女性の方は出てくるという意識がある。
- ・温暖化の活動を子供達がしている、そこでこういうものを作りたいんだけど、来てくれませんかという感じでないと来ないかもしれない。
- ・竹馬や竹とんぼなど工作のように昔の技能を教える時には来てくれる。筋トレや麻雀なども。
- ・数年前、公民館の運営審議会の委員もやらせていただいていた、公民館の活動もしげくやらせていただいている。公民館の方も工夫していろんな球を打つが、来る人は決まっている。どこでも同じような悩み。運営審議会でもいろんな案を出す、なかなか若い人は取り込めない。本当に色々やっけて、地球保全の活動をしている人達も取り込んでいる。金谷公民館では、夏まつりをやる時に公民館で活動している人達全員に声をかけて、いろんな形でボランティアで参加してもらおう、そのようなことをしながらその人達の活動の紹介もする。そのように繋ごうとする努力はしている。活動紹介をしても通り過ぎてしまい、入ろうという感じはない。
- ・女性は自然にコミュニティを作る。コミュニティを作らないと子供を育てられないから。本能的に備わっているから、コミュニティの中に出ていける。男性はそうではない。ではどこに視点を落とすかはこれから検証する必要がある。
- ・金谷公民館で実施した歴史に関する講座はたくさんの方が来た。そのようなことを知りたいという人は多く、男性が多かった。目先を変えて有名な方が講義をしてくださるなどすれば、来てくれる人がいるのかと話もした。
- ・夏まつりの時は小さなお子さんが来るので、イベントをやったりしている

が、今の若い世代は生活にしていくのに精一杯、子どもの活動に帯同するのに精一杯。なかなかそういったところに目が向かないのは現実としてある。そこを掘り下げていくよりも、そういう繋がりを持つ場だけは作っておいて、ある程度の年齢の方が楽しそうに活動している現場を見てもらうようなことができれば、そういう人達がいるんだ、楽しむ場があるんだとがわかることでいつかはそこに行こうと思えるような公民館だったら、もう少し人は来るのかな。

- ・東日本大震災の時に日本は自分も大変だが自分よりも大変な人をいるからそちらへボランティアに行っておいてあげてくださいと、地域の中で助け合う姿勢ができあがっている。そのおかげでいろんな暴動も起きないし、粛々と物事が進んでいく共同体としての場所を持っている日本は素晴らしい国だとの文献があった。そういうものが少しずつ崩れかけているなど気がしている。年齢的な断裂という部分でもそういうことがある。だからこそ公民館が繋ぐ場として、いろいろなものを提供しながら年齢の壁も乗り越えられるような活動ができる場だといひ。
- ・一編に参加者が増えるようなことは難しいのか。その地区の課題がある。その情報をみんなで共有できるようになれば。ひとりでもふたりでも繋がりが出てくれば、そのようなことならできるのか。
- ・若いお父さんに参加してもらおうよう母と父と子どもと一緒に出てくるような講座を企画したことがあるが、出てくる人は数人、数組。
- ・夏まつりのお化け屋敷にたくさんの方が来たこともある。
- ・公民館を使ってみるきっかけ、使うことにハードルが高い。使えると思っていない人が多い。使うきっかけがあるともう少しハードルが下がるのでは。使ったことがない人はハードルが高いと考えている。
- ・行ったことがない人はあまりいない。祭りがあるので。
- ・金谷公民館は男性のおやじの井戸端講座を実施している。ニーズを見出している。どのように広げていくかは絆やネットワークがあるかもしれない。
- ・若い子はカードゲームをする子が多いが、カードゲームの大会をやったり、公民館を使うきっかけにしてアピールしていけば、使うハードルは下がるのか。自分達でやりたいと出てくれば、減免も制度もあるので、そのようなところから使えたと理解してくれれば。
- ・お休み処としてもいいのでは。
- ・学生も喫茶室を利用し勉強している子もいる。
- ・六合も図書室で勉強している子はいる。
- ・いい事例を挙げていくことは大事。初倉は土日の方が貸館の稼働率が悪い。若い世代は使わない。六合はほぼ一杯。地区の公会堂やあけぼのを使う。
- ・太極拳講座に初めて行った。その講座は短期の1回だけであったことも参加した要因であったかもしれない。スモールスタートも手かもしれない。(事務局)
- ・良かった事例が挙げられて、ヒントが出た。そのような具体例を答申の中でも触れていければ。
- ・次回会議の進め方は田代議長とも相談し決める。前に進めて後戻りのないよ

うに組み立てていく。(事務局)

- (2) 第54回関東甲信越静社会教育研究大会栃木大会について
田代議長、杉山出席予定
日程：令和5年11月21日(火)～22日(水)

5 その他

6 閉会(萩原副議長)

- ・8月26日は島田の花火、31日は今年最大の満月。空を見ながらゆとりを持って生活していただければ。